

倒れにくく栽培しやすい大粒の ソバ新品種「にじゆたか」

《日本と東北のソバ事情》

東北地域は全国のソバ作付面積の30%近くをしめる重要なソバ産地です。ソバは、種まきから収穫まで70日くらいの生長の早い作物で、その実は栄養豊富なことが知られています。おなじみの麵のほか、菓子類やお茶、スプラウトなどにも利用されています。とても日本的な食材に感じられるため、自給率が約20%と低いことは案外知られていないのではないでしょうか。国の計画ではソバの生産量を今後10年で2倍に増やすとしており、栽培技術の向上とともに、収量・品質の良い新品種の育成が求められています。東北地域では、単位面積あたりのソバの収量が長年にわたり全国平均の70%程度にとどまっています。そこで東北農業研究センターでは初めての育成品種「にじゆたか」を2011年に発表し、普及を始めたところです。

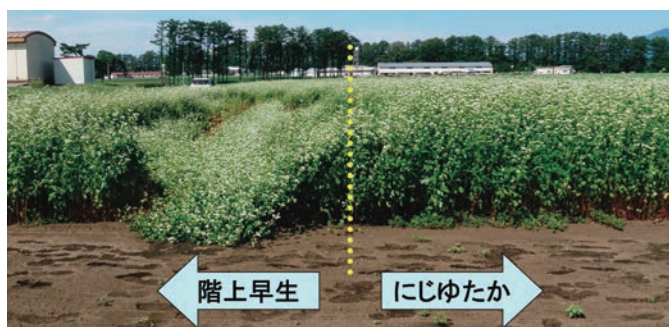


写真1／「にじゆたか」と「階上早生」の倒れ方の違い
(2010年9月6日、東北農研センター圃場、「にじゆたか」の草丈は約130cm)

《新品種「にじゆたか」の特徴と栽培方法》

「にじゆたか」は、2001年度に「葛生在来」と「戸隠在来」を交配し、その子孫から特性の優れるものを選ぶことによって育成されました。特徴は、①草丈は高めだが倒れにくい(写真1)、②実が大きく粒揃いが良い(写真2、図1)、③そば粉に甘みがあり美味しい、というものです。収量は東北農業研究センターで5年間調べた平均値では標準品種「階上早生」をやや上回り、その他各地で多収の成績をおさめました(図2)。実が大きく粒揃いが良いので、収穫後調整から製粉



写真2／「にじゆたか」と「階上早生」の子実

畑作園芸研究領域

由比真美子

YUI, Mamiko



加工までの工程で歩留まりがよいことも利点にあげられます。

「にじゆたか」は夏まき・秋収穫用の品種です。倒れにくい品種ですが、播種量や施肥量が多すぎると倒れやすくなるので注意する必要があります。実が良く充実して収量が上がるよう、草丈120cmくらいに育てます。ソバは湿害を受けやすい作物なので、畑の条件に合わせた排水対策と畝たて栽培技術の活用などによる被害回避も大切です。また、「にじゆたか」は遅まきすると収量が低下するため、岩手県平野部の場合では遅くとも8月5日までを目途に播種します。

「にじゆたか」は2011年3月の東日本大震災からの復興を願う意味を込めて命名されました。「夢と希望と豊かさ」を運び、ソバの生産振興に役立つことを願ってやみません。

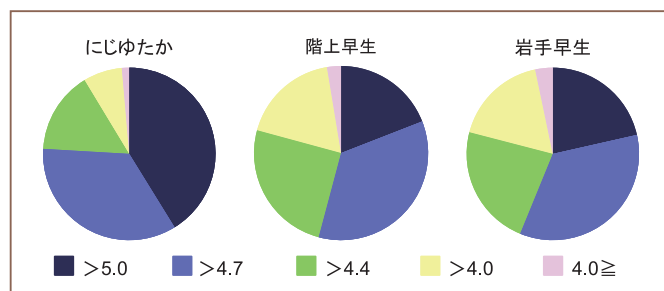


図1／ふるい分けされたソバの実の大きさ別割合
2009～2010年産ソバの平均成績、数値はふるい目の大きさ (mm)
「にじゆたか」は4.7mmより大きい実で全体の75%を超える

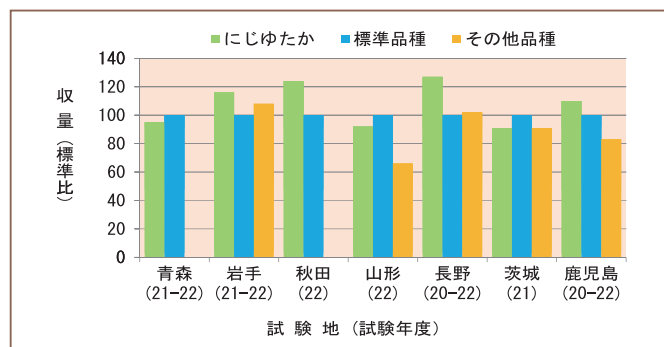


図2／「にじゆたか」の収量成績(標準品種=100として比較)
標準品種：「階上早生」(青森、秋田)、「岩手早生」(岩手)、「最上早生」(山形)、「信濃1号」(長野)、「常陸秋そば」(茨城、鹿児島)
その他品種：「階上早生」(岩手、長野)、「でわかおり」(山形)、「信濃1号」(茨城)、「鹿屋在来」(鹿児島)